

第5回意見交換会の開催報告

- 1.日時：令和3年12月23日（木） 16時00分～17時20分
- 2.場所：名古屋市役所 西12F 会議室
- 3.参加者：「健康と環境を守れ！愛知の住民いっせい行動」実行委員会、
道路公害反対愛知県民会議
- 4.市出席者：緑政土木局企画経理課 可児主査（企画）
道路維持課 姫野主査（安全対策）
道路建設課 山中課長、蒲野主査（事業調整）
緑地事業課 小林緑地計画係長

5.参加者：5名

6.当日の次第

- (1) 開会のあいさつ
- (2) 現状報告
- (3) 弥富相生山線について
- (4) 入り込み交通対策について
- (5) 相生山緑地の基本計画検討会の報告
- (6) 閉会のあいさつ

7.主な質疑、意見等（○参加者、●名古屋市）
（弥富相生山線について）

○学術検証懇談会では、相生山緑地が緑地として計画された原点に立ち返り、相生山緑地が、持続的可能な社会や地球温暖化の関係からどういう役割を果たすのか、検討したほうがいいと思う。

●学術検証懇談会は、平成22年度に行われた「相生山緑地の道路建設に係る学術検証委員会」から10年経て、改めて弥富相生山線に関して学術検証を行ったもの。緑地も含めた道路に関する調査結果をもとに、学識者から道路に関して、ご意見をいただいた。

○学術検証懇談会を白紙に戻して、相生山緑地をどうするかという学術検討会を立ち上げたほうがよい。

○市長は、道路はつなげないと表明している。なぜ、折衷案なのか。「折衷」とは、辞書では「二つの意見があった場合、お互いの意見のいいところを合わせる。」とある。道路を造ってほしくないという意見と、道路を造ってほしいという意見では、

折衷案はありえない。

- 価値観は 2 つではないと思うので、なぜ道路を造って欲しいのか、なぜ道路を造ってほしくないのか、その理由を含め、学術検証懇談会や調査検討で得たデータを用いながら、皆さんにご理解いただけるものを検討したいと考えている。
- 学術検証懇談会において、弥富相生山線の概要説明で、概ね 8 割の整備が進んだ状態で中断していると説明しているが、どのような理解なのか。平成 25 年度までの事業費 29 億円のうち工事費 11 億円、用地買収に 16 億円、測量設計費で 4 億円とのことなので、8 割整備という説明は、学術検証懇談会の委員が間違った判断をしてしまうのではないか。
- 弥富相生山線の整備費として、当初の予定額は全体で 36 億円、現在までに 29 億円を執行したので、執行済み金額で約 8 割となっている。また、弥富相生山線の整備予定延長は約 900m で、そのうち未着手区間は約 180m なので、工事着手済み延長で約 8 割となっている。学術検証懇談会当日の説明では、簡略化して表現しているところがあるが、各委員へは事前に誤解のないように説明をしてある。
- 今回の調査検討では、道路開通に伴う騒音や振動などの環境に関する事項がもれているのではないか？
- 学術検証懇談会では、平成 22 年度と同じ評価軸で同じ委員で評価していただいている。平成 22 年度の評価軸には環境負荷に関する事項もあり、その結果と今回の調査検討を踏まえ、学術検証懇談会の結果として、平成 22 年度の学術検証委員会の報告書と同じであったと報告された。

（相生山緑地 緑地計画検討会の報告）

- 緑地計画検討会では、来年度、若い人達をどのように募集するのか？
- 具体的な募集などの仕方については、これから検討していくところ。
- 実施した回数だけでなく、現在どのようなことを検討しているのか説明してもらいたい。
- 緑地計画検討会では、まとまったものはまだないが、参加されている多くの方から、『相生山緑地の自然は、都市の中で大切である』という共通した意見をいただいている。その『自然』をどのような形で残していくか、意見交換しているところ。皆さんの意見を汲み取りながら、将来的な相生山緑地のコンセプトを、次回の緑地計画検討会でとりまとめていきたいと考えている。
- 緑地計画検討会では、道路を切り離して緑地について考えてほしいと言われた。道

路の話を抜きにして、緑地をどうするかを話し合うことは、非常に難しい。

- 当初は、意見交換会において道路と緑地を一緒に意見交換していたが、議論がなかなか進まない状況だった。また、相生山緑地は 120ha 以上あるので、相生山緑地の将来像については、道路の話と切り離しても意見交換できるのではないかと考え、緑地計画検討会を始めた。相生山緑地についての意見交換は深まってきていると考えている。
- 以前の学術検証委員会の方から、「道路を造ることによって、竹林の拡大が止まる」というようなご意見があった。竹林の拡大は、道路で止めるものではない。竹林が広がるのを止めたいのであれば、名古屋市は竹林の管理をなぜやらないのか？
- 竹林の拡大は課題の 1 つと考えている。相生山緑地内に竹林は点在しており、道路を建設することが、竹林の拡大を止める直接の要因になるとは考えていない。竹林管理のためには手を入れていく必要があるが、民有地や、市有地であっても道がない場所は作業ができない。来年度からはボランティアの方が活動している区域以外でも、名古屋市が予算を構えて竹林の管理をしていきたいと考えている。